



あたらしく、知多らしく。

梅香る わたしたちの緑園都市

令和8年5月1日（金）

知多市報道発表資料

秘書広報課

担当：広報チーム 橋本

(0562-36-2642)

「広報ちた」が令和8年全国広報コンクールの 広報写真（組み写真部）で入選を受賞

公益社団法人日本広報協会（東京都新宿区）が主催する令和8年全国広報コンクールにおいて、広報ちた令和7年10月号の表紙が広報写真（組み写真部）で入選に選ばれました。

1 全国広報コンクールの概要

公益社団法人日本広報協会が主催し、地方自治体等の広報活動の向上に寄与することを目的に、各種広報作品について審査を行い、優秀な作品（団体）を表彰するものです。都道府県等の審査・推薦により提出された広報作品が審査される中で、広報ちた10月号の表紙（令和7年度愛知県広報コンクール 広報写真部門（組み写真） 特選）が入選に選ばれました。

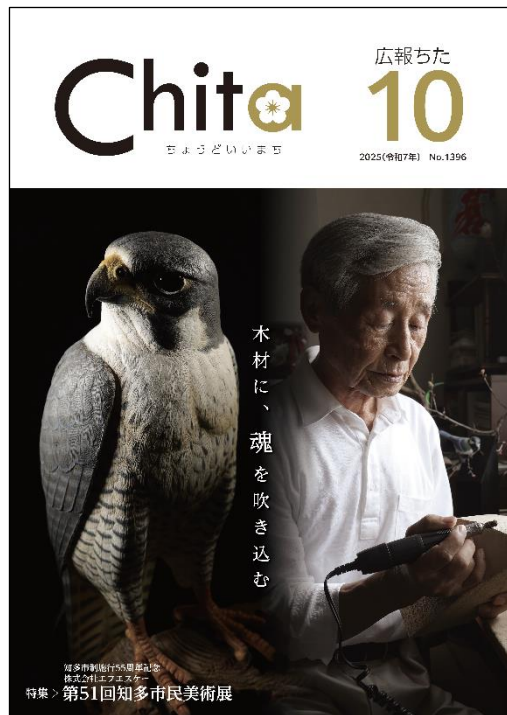
2 入賞作品と掲載意図

広報ちた 令和7年10月号 入選（応募点数：広報写真（組み写真部）36点）

知多市では、毎年秋に「知多市民美術展」を開催しています。市民の力作が集まる美術展には、素晴らしい作品が多数出品されています。表紙左の写真は、令和6年度に彫刻・工芸部門で市長賞を受賞した作品『獲物の飛翔を探すハヤブサ』と、表紙右の写真がその制作者です。1片の木材から彫られたハヤブサは、1本1本の羽や足の細かな筋まで再現され、本物と見間違ふほどの精巧な作品に驚きました。

表紙のレイアウトは一枚写真ではなく、作品と制作中の様子を並べた組み写真とし、木材に魂を宿す匠の技を表現しようと思いました。質感と重厚さが感じられるように光と影を付け、2枚の写真の境界をぼかすことで、魂を吹き込む制作者と、魂が宿った作品との一体感を表しています。

この組み写真を見て、こんな素晴らしい作品があるのかと、市民美術展に興味を持っていただき、たくさんの方に足を運んで欲しいという思いで掲載しました。



3 審査講評

「知多市民美術展」の市長賞作品に焦点を当てた表紙。撮影者の視点が反映され、美術展への関心を喚起する構成となっている。静かな優しい光に照らされた作品と作者の組み写真に一目でくぎ付けになってしまった。

入賞作品を並べるのではなく、作品と作者を対に構成することで新たな視点を示している。どちらも光の使い方がうまく、作品には2灯、作者にはサイドからの柔らかな光量で紙面での魅せ方を心得ている印象だ。陰影を生かしたポートレートにより、作品と作家双方の存在感が引き立ち、視線を引き付ける仕上がりとなっている。

作者と作品が醸し出す、どこか似通った雰囲気が見る者を引き付ける。木彫りのぬくもりと匠(たくみ)の真摯な姿勢を鮮明に浮かび上がらせている。仕事への誇りを静かに可視化した、品格のある秀逸な組み写真だ。